



## 報告書

### インドネシア・ジョグジャカルタ州バントゥール地区シドムリヨ村の社会経済復興 日本生活協同組合連合会の医療部会（HCA-JCCU）の支援による 診療所及び中小・零細ビジネス相談所の再建

2006年5月に発生した大地震によって、ジャワ島中部では6,000人近い人が犠牲になり、また40万棟の建物が全半壊した。この大災害を受け、ILO ジャカルタ事務所はインドネシア政府や社会的パートナーと協力し、ジョグジャカルタの雇用と再建の課題に取り組んできた。こうした復興支援の一環として、日本生活協同組合連合会の医療部会（HCA-JCCU）の資金協力を受けたプロジェクト、「ジョグジャカルタ・バントゥール地区・シドムリヨ村のクリニック再建プロジェクト」が実施された。地元住民によるクリニックの再建は、資金繰り等の問題により、2006年の8月に一旦は断念されていた。ILOは再建支援の必要性を認識し、資金・技術援助、雇用や訓練の機会などを提供することで、地元コミュニティを支援した。

- バントゥール地区では、ILO によって6月から9月の間に、耐震建築のためのコンクリートミックスやれんが積みなどの技能訓練が行われ、400人余りが受講した。現在、受講生のほとんどが再建現場で雇用されている。ILO も、本プロジェクト現場において8名の訓練修了生を雇用する計画をたてた。

プロジェクト現場。ILOの協力を示す横断幕が掲げられている



- 生協医療部会の資金により、シドムリヨ村の建物二棟が再建されることになった。建物はそれぞれ、診療クリニックと、地元の中小・零細ビジネスの相談窓口となる地域経済開発（村おこし）クリニックとして使用される。ILO 訓練コースの修了生であるダリマン氏が、当再建活動の計画、実施の監督・運営を行った。30人を超える建設作業員が雇用され、30作業日にわたり働いた。

倒壊したクリニック。壁の一部だけが姿をとどめている



- 12月22日に、地元関係者の出席のもとで、施工式が執り行われた。プロジェクト現場のシドムリヨ村を管轄するバンバン・リブロ準地域（バントゥール地域の一部）の代表であるエディアストゥティ女史が、祝辞を述べ、日本生活協同組合連合会・医療部会によって支援されたILOの取り組みに対して感謝を表した。

定礎式で最初のレンガを置くエディアストゥティ女史



- 住民への診療サービス提供の持続性を確保するため、2007年1月15日に関係者会議が開催された。会議では、バントゥール地区保健局の関係者とバンバン・リブロ保健センター長（Puskesmas）が医療機器、薬品、人材面での支援を確認した。

会議の様子



- 再建活動完了に伴い、2007年2月14日、バントゥール地区保健局長のシティ・ノル・ザナブ女史が、二棟のクリニック（診療所および中小・零細ビジネス相談所）を正式にオープンした。開所式には、人材開発省、厚生省、および産業省、バントゥール地区協同組合局を代表する20名を超える招待客、加えてシドムリヨ村の代表者が参加した。

クリニックの開所を記念し、掲示板に署名するザナブ女史



- 祝辞の中で、ザナブ女史は再建されたクリニックを正式に「村の診療所」（POSKRSDDES）として公認し、地区政府の事業の一環として、診療サービスの提供を支援することを確認した。

完成した診療所と、中小・零細ビジネス相談所

